

結核集団感染事例について

市内保健所に肺結核患者の届出があり、患者と接触のあった市内の専門学校関係者および家族等を対象に接触者健康診断を実施しました。これまでに初発患者を含めて結核患者5名および感染者9名が確認され、結核集団感染事例として、厚生労働省に報告しましたので、お知らせします。

1 経緯

- 初発患者（20代、女性）は、令和5年4月上旬に背部痛が出現し、A医療機関を受診し経過観察。5月上旬には咳および血痰が出現し、5月中旬の学校健診にて胸部X線検査にて陰影を指摘され、5月30日にB医療機関を受診。6月19日に精査目的でC医療機関を受診したところ、肺結核と診断を受け、市内保健所に肺結核患者の届出があった。
- 令和5年7月より、患者が通う市内の専門学校関係者および家族等（51人）を対象に接触者健康診断を実施し、令和5年10月27日現在、結核患者4名と感染者9名が確認された。

接触者健診実施者数	健診結果			
	結核患者	感染者	精査中	異常なし
51名	4名	9名	1名	37名

2 結核患者等の概要

○現時点で、初発患者を含め患者5名、感染者9名。（いずれも外国籍）

○初発患者含む患者および感染者13名は治療中、1名は経過観察中であるが、重症ではない。

結核集団感染とは、厚生労働省が定める基準において、同一の感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいい、患者1人は6人が感染したものととして感染者数を計算することとなっている。

		年代・性別	属性	症状等	転帰
初発患者		①20代・女性	-	咳、血痰等	通院治療中
接触者	患者 ※1	②20代・女性	家族	肺所見有	通院治療中
		③20代・男性	友人	肺所見有	通院治療中
		④20代・男性	専門学校生	肺所見有	通院治療中
		⑤20代・男性	専門学校生	リンパ節炎	通院治療中
		⑥20代・男性	専門学校生	無し	通院治療中
	感染者 ※2	⑦20代・男性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑧20代・男性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑨20代・男性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑩20代・女性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑪20代・女性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑫20代・女性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑬20代・女性	専門学校生	無し	通院治療中
		⑭20代・男性	専門学校生	無し	経過観察中

※1 「患者」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態にある者をいい、発病初期は、他者に感染させることは少ないが、病状の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌されると他者に感染させることがある。

※2 「感染者」とは、体内に結核菌を保菌している状態にある者をいい、他者に感染させることはない。

3 行政対応

○患者の健康調査、接触者調査及び感染拡大防止の指導を実施。

○治療中の患者に対して、服薬継続が確実に進むよう支援を実施。

○初発患者は一時入院治療していたが、現在は軽快し通院治療中である。また、接触者に対しては健診や継続的な経過観察等を実施しており、現時点では感染拡大の可能性は低い。

【市政記者クラブの皆様へ】

結核は、近年減少傾向にあるものの、令和4年は、全国で約1万人、福岡市では100人以上が新たに結核患者と診断されており、いまだ警戒が必要な感染症のひとつです。特に加齢によって抵抗力が低下する高齢者や、結核の罹患率が高い国出身の方が多く報告されています。結核の早期発見のためには、定期的に健診を受けるとともに、咳や痰などの症状が2週間以上続く場合は受診することが重要です。市政記者クラブの皆様におかれましては、市民への結核に関する啓発にご協力をお願いします。

参考

1 結核の特徴

原因（病原体）：	結核菌
感染経路：	結核は、たんの中に「結核菌」が出ている患者の、せきやくしゃみで飛び散ったしぶきを吸い込むことにより感染します。
感染と発病：	「感染」＝「発病」ではありません。「感染」は体内に結核菌を保菌している状態で症状はありません。結核菌が病巣をつくり、その中で増え始めると「結核を発病」した状態になります。感染した人がすべて発病するわけではありません。 結核の感染者のうち発病する人は、約1割といわれ、発病する場合は感染後6カ月頃から2年以内のことが多いといわれています。まれに潜伏期間が数十年に及ぶ場合があり、他の病気や加齢等により身体の抵抗力が低下したときなどに発病することもあります。
発病した場合の症状：	咳、痰、発熱、血痰、胸痛、倦怠感、寝汗、体重減少などです。 初期の症状は風邪とよく似ているので、見逃されることがよくあります。せきやたんが2週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診することが重要です。
治療方法：	現在、結核に有効性がある薬（抗結核薬）が開発され、3～4種類の薬を6～12か月確実に服薬すれば治すことができる病気になりました。ただし、薬剤の選択が不適切であったり、途中で内服をやめてしまったり、飲み忘れたりすると薬が効かない「耐性菌」を生み出し、治療できる薬が少なくなり、手術や長期の入院・治療が必要になることもあるため、確実な内服治療が重要です。 なお、他者へ感染させる可能性がある状態（たんの中に結核菌が出ている状態）の場合は入院治療が必要であり、原則として感染予防のための設備が整った結核病床を有する感染症指定医療機関に入院することとなっています。

2 福岡市内における結核集団感染の発生状況（過去5年）

公表日	場所	患者数等
平成31年 3月	日本語教育機関	結核患者19名、感染者 7名
令和 元年 11月	勤務先等	結核患者 3名、感染者12名
令和 5年 2月	日本語教育機関	結核患者 3名、感染者 7名

【特記事項】

今回の情報提供は、市民への結核に関する啓発及び学校等に対する注意喚起のために行うものであることから、報道にあたっては、患者等のプライバシー保護にご配慮をお願いします。